

## 秋田県地域生活定着支援センターからのお知らせ

秋田県地域生活定着支援センターの業務の紹介などをしていきます。ご一読いただければ幸いです。

### 令和5年度大館市福祉まるごと支援ネットワーク代表者会議に参加しました(2024/2/14)

令和6年2月14日(水)、大館市駅なか交流センターで行われた、大館市福祉まるごと支援ネットワーク代表者会議(以下、「代表者会議」という)に参加しました。

今回は、重層的支援体制整備事業として開催された代表者会議に、当センターが県内3か所で行っている地域福祉検討会を組み込んでいただき、委員19名のほか事務局である大館市福祉課職員など26名が参加しました。

代表者会議では、はじめに令和5年度の活動報告として、重層的支援体制整備事業の取組み状況について大館市及び大館市社会福祉協議会職員から報告がありました。



重層的相談体制整備事業は、Ⅰ相談支援、Ⅱ参加支援、Ⅲ地域づくりの3つの柱で行われており、相談支援では昨年度と比べ相談件数が増えていることや、精神障害・知的障害を抱えた方々からの相談が増えていることが報告されました。

参加支援については、おおだてひきこもり相談室と連携して地元の商店等の協力により、ボランティア活動や職場体験など社会参加への支援を行っているとのことでした。

地域づくり事業では、生活支援コーディネーターと連携した「福祉まるごと相談支援会議」の開催など、地域住民主体で支え合い活動ができる体制づくりの取組みなどの報告がありました。

続いて、秋田県地域生活定着支援センター(以下、「定着支援センター」という)豊澤センター長から、「罪を償った高齢者・障がい者の立ち直りを地域で支えるために」と題し、業務概要や事例を紹介し、罪を償った高齢者・障がい者が地域で暮らしていけるよう、関係機関の連携による支援の必要性を求めました。

参加者からは、身元がない方の保証人はどうなるのか、認知症状と万引きの関係はどうか、といった質問が出され、豊澤センター長から、身元保証を必要としない不動産業者もあることや民間の企業で身元保証を行っているところもあるが、契約の際は必ずケアマネージャー等関係者が立ち会うこと、万引きはお金があってもつい盗んでしまうという嗜癖行動もあり、関係者が伴走しながら息の長い対応をする必要があるとの話がありました。

代表者会議終了後、大館市福祉課職員から「大館市へ帰住を希望する方がいたら、関係機関と連携して支援していきたい」という心強い言葉をいただきました。

定着支援センターでは、罪を償った高齢者・障がい者の立ち直りを地域で支え地域共生社会の実現につなげるために、次年度も地域福祉検討会を県内3か所で開催するほか、福祉施設や関係機関を訪問し、定着支援センター業務の理解と協力を求めて行くこととしております。